

新型コロナウイルスのワクチン接種 副反応が疑われる死亡事例が県内では 23 人に【長野】

6/2 長野朝日放送



<https://news.yahoo.co.jp/articles/6f721d08167ac4d0008aa782a6a8a47decd4182e>

新型コロナのワクチン接種について、副反応が疑われる死亡事例が県内では5月末までに23人に上ることが分かりました。中でも、伊那市では2人目の死亡認定です。

伊那市健康推進課によりますと、新型コロナのワクチン接種に伴う死亡が厚生労働省に認定されたのは2人目です。

予防接種の健康被害に関する国の救済制度によるもので、遺族には死亡一時金など4451万円が国から支払われます。

死亡した人の性別や年齢、基礎疾患の有無などはプライバシーの観点から明らかにされていません。

新型コロナのワクチン接種に伴う死亡は、長野市の1人がおとし9月に県内で初めて認定されています。

県疾病・感染症対策課によりますと、ワクチン接種の副反応が疑われる死亡事例として市町村から報告があったのは、5月末までに23人だということです。

コロナワクチン接種の死亡事例含む10件を認定 - 厚労省の予防接種審査分科会

6/2(月)CBニュース

厚生労働省は、疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会（5月30日開催）の審議結果を公表した。新型コロナワクチンを接種した13件について、予防接種と疾病・障害などとの因果関係を審議し、10件を認定、3件を否認した。

請求内容は「医療費・医療手当」が8件（認定6件）で最多、次いで「死亡一時金・葬祭料」が4件（認定3件）、「葬祭料」が1件（認定1件）だった。

今回の審議結果を含む進達受理件数は1万3,694件。うち認定は9,171件、否認は3,747件、保留は7件となった。